

福山医療センターでの院内感染発生の経過について

当院で昨年 12 月 17 日に発生いたしました新型コロナウイルスの院内感染、それに続くクラスター発生（集団感染）では、皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけ致しましたこと、心よりお詫び申し上げます。新型コロナウイルスに感染され、入院継続治療を余儀なくされました患者様へは、基礎疾患を含め最大限の治療を尽くしましたが、力及ばずお亡くなりになりました患者様もいらっしゃいます。お亡くなりになりました方に深く哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の方々には心よりお悔やみを申し上げます。また、院内感染により入院継続、隔離を余儀なくされた患者様とそのご家族の方々にも大変なご心労をお掛けし、更には当院での治療を必要とされていた患者様、ご家族におかれましても、手術、検査を含めた治療の遅延、退院延期や面会禁止など、ご不便をおかけする状況となり、改めて深くお詫び申し上げます。日頃より当院を信頼、御支援して頂いております患者様、医療関係者の皆様、地域住民の皆様には多大なご不安、ご不便をお掛けしましたことを重ねてお詫び申し上げます。

当院における新型コロナウイルス院内感染に伴うクラスター発生からその後の経過に関しまして、現在までに判明しております事実に基づき、以下のとおりご報告申し上げます。

当院では、2020 年 1 月に国内で新型コロナウイルス感染症が発生して以来、感染対策委員会を中心に新型コロナウイルス感染症対策の検討を重ねており、2020 年 4 月に福山市で新型コロナウイルス感染症患者の 1 例目が発生したことを受け、感染対策を行った上での外来診療体制や入院治療体制を構築し、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行ってきました。

その様な対応の中、残念ながら、2020 年 12 月に大規模な院内感染によるクラスターが発生し、入院患者様の治療が大きく制限され、救急患者様の受け入れや外来・入院診療も制限せざるを得ない状況となりました。

感染対策委員会では院内感染発生当初から福山市保健所、福山市医師会、県クラスター対策班と緊密な連携を取り対応して参りました。現在もこの度の院内感染拡大の原因を引き続き調査しておりますが、その要因が十分に解明されておらず、今後も原因究明を続けつつ、全職員一人ひとりが厳密な感染対策を行い、通常診療再開に向けて取り組んでおります。

<今回の院内クラスターによる感染者数> 2021 年 2 月 8 日現在

- ・入院患者 46 名（呼吸器病棟 43 名、外科病棟 3 名） ・退院患者 6 名
- ・医療従事者 19 名 ・当院感染者関連 10 名

今回の経過の概要

大きな動きのあった日時を時系列で説明させていただきます。

12 月 17 日

- 発熱症状がある当院の職員に対し、新型コロナウイルス感染症を疑い PCR 検査を実施したところ陽性と判明した。

12月18日

- 陽性となった職員と接触歴のある患者や職員(65名)にPCR検査を実施したところ、新たに呼吸器病棟において入院患者1名の陽性が判明した。当該患者を隔離できる病棟へ移動し治療実施。
- この時点で福山市保健所保健予防課および外部専門家（広島県のコロナウイルス感染症クラスター対策班）に報告を行い、その指示の下、院内感染対策を実施した。

12月19日

- 呼吸器病棟の全入院患者と関係職員（約52名）にPCR検査を実施し、全員の陰性を確認した。

12月21日-23日

- 陽性者と濃厚接触があった入院患者および職員(約69名)に適宜再度のPCR検査を実施したところ、入院患者3名（最初の患者と同室者2名、個室1名）、職員2名の陽性が判明した。当該患者を隔離できる病棟へ移動し治療実施。

12月24日

- 呼吸器病棟の全入院患者と職員全員のPCR検査を行い、新たに入院患者8名の陽性を確認した。職員は全て陰性であった。
- 病棟全体への感染拡大と判断し、呼吸器病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟に転用してゾーニングを行い、管理を開始した。

12月25日

- 入院患者2名（4人部屋の同室者）の陽性を確認した。

12月27日

- 入院患者2名の陽性を確認した。

12月28日

- 入院患者15名と職員1名の陽性を確認した。

12月29日

- 外部専門家による呼吸器病棟の訪問並びに当院の感染対策についてご助言、ご指導をいただき、改善が必要な箇所を修正した上で院内感染対策を実施した。

12月30日

- 入院患者2名と職員6名の陽性を確認した。

12月31日

- 入院患者7名の陽性を確認した。

1月2日

- 職員2名の陽性を確認した。

1月5日

- 準緊急手術予定であった外科病棟の患者の術前PCR検査で偶発的に陽性が判明したため、外科病棟入院患者及び職員のPCR検査を実施し、陽性者と同室であった患者1名の陽性が判明した。このため、外科病棟のゾーニングを行い、感染病棟として管理を開始した。
- 呼吸器病棟から他病棟への感染拡大が生じた可能性も否定できず、入院を制限するために手術、産科・新生児救急を含め全ての救急受け入れを停止した。

1月6日

- 外部専門家（広島県感染症・疾病管理センターの専門医師 2 名）による現場確認と感染対策委員による協議を行い、当院のクラスター対策についてご助言、ご指導をいただき、さらなる改善が必要な箇所を修正した上で院内感染対策を実施した。

1月7日

- 外科入院患者 1 名と外科病棟の職員 1 名の陽性を確認した。

1月20日

- 最初に陽性者が確認された呼吸器病棟に応援に行っていた職員 1 名（手術室勤務）の陽性が判明した。
- 1月22日より手術室再稼働、救急対応再開を予定していたが急遽中止とした。

1月25日

- 行政機関と協議の上、感染非拡大部門である内科系救急を再開した。
- 1月10日まで呼吸器病棟に勤務していた職員 1 名の陽性が確認された。このため、接触者の PCR 検査を実施し、全員が陰性であることを確認した。
- 1月28日から産科・新生児救急の再開を計画していたが、万全を期すため一旦中止とした。

2月3日

- 手術室職員全員の PCR 検査を施行し、すべて陰性であることを確認した。

2月4日

- 手術の再開と外科系救急の受け入れを再開した。

2月5日

- 1月25日に陽性となった職員の接触者すべての PCR 検査が陰性と判明した。

2月6日

- 産科・新生児救急の受け入れを再開した。

以上が今回の院内クラスター発生の概要です。

病院機能の再開にあたり、今回のような感染拡大を決して繰り返さないために、院内感染防止対策を見直すとともに、さらなる徹底を図るため診療継続計画を改定致しました。

福山医療センターは、職員全員が感染対策に関する知識・技術を習得すると共に、システム作りや物品の確保を病院が責任をもって行うことを以下に宣言します。

【A. 患者様・職員の安全確保】

1. 院外での感染対策を日々徹底し、毎出勤時には検温と健康チェックを行います。体調不良の職員は勤務せず、発熱者外来を受診します。
2. 常時マスク着用、患者様と接触する際には適宜ガウン、手袋、アイシールドを着用し、一患者様対応毎の前後での手指消毒を徹底します。
3. 防護具の着脱について、日常的な訓練と手順の確認を行います。
4. 安全かつ十分な感染対策ができるよう病院として物品の確保に努めます。
5. 全職員が職種・部門や立場を越えて、不安や意見を自由に語るができる環境づくりを進めます。

6. メンタルヘルスに関する相談窓口を設置し、チェックシートを活用して職員の心のケアを行います。

【B. 院内消毒の徹底】

1. 手指消毒用アルコールを院内出入口、受付カウンター、トイレ入り口、診察室入り口、職員更衣室などの各所に設置します。
2. 常時、窓を開けて換気を行います。また、病院として換気システムの見直しと強化に努めます。
3. イスや手すりなど共有場所の消毒は午前・午後の各診療終了後に徹底して行います。
4. ペン・PHS・パソコンなどの共有物は使用の都度、消毒を徹底して行います。

【C. 時間・空間の隔離】

1. 予約システムを活用し密を避け、待合座席は間隔を空けてのご利用をお願いしていきます。
2. 飛沫感染防止のため、受付カウンター、対面型の検査部門にはビニールカーテンやアクリルボードを設置します。
3. 職員更衣室、休憩室では3密を避け、食事中の会話は禁止とし、使用前後のアルコール消毒を徹底します。
4. 普段から各病棟のゾーニングと、陽性患者発生時の初動（隔離・消毒・情報共有）を確認し、院内感染の発生に備えます。

【D. 診療における感染対策】

1. ウイルスを持ち込まない
 - ①緊急入院、化学療法入院、手術入院、2週間の健康チェックに不備のある予定入院患者様は全例新型コロナウイルス PCR 検査を実施し、陰性であることが確認されるまでは個人用防護具対応とします。
 - ②手術前日（月曜日手術の場合は金曜日）の新型コロナウイルス PCR 検査の陰性確認を必須とします。
 - ③手術室内での業者の立ち合いは原則禁止とし、必要時は健康チェック表の提出及び前日での新型コロナウイルス PCR 検査の陰性確認を必須とします。
 - ④病院入り口で検温チェックを行い、有熱者の方は他者と導線が交わらないよう案内します。
2. ウイルスを拡げない
 - ①各病棟をゾーニングし、必要時には十分な隔離管理を行います。
 - ②各病棟で診療科を固定し、病棟間の患者様・スタッフの移動、出入りを可能な限り制限します。
 - ③入院部屋は可能な限り個室を優先し、大部屋は最大2床までの運用とします。
 - ④各病棟で新型コロナウイルス陽性患者が発生した際は、速やかに対応マニュアルに基づき対応を行います。

当院で新型コロナウイルス院内感染、クラスターが発生後、医師会を始め、地域の医療機関の皆様から御支援を頂き現在に至ることができました。皆様の御支援、御協力に、改めて心より感謝申し上げます。未だ、新型コロナウイルス感染症との闘いは終わりませんが、今後も、厳重な感染対策を講じ、安心安全な医療を継続して提供し、地域医療に貢献させて頂きたいと存じます。

病院機能の完全な回復まではまだ時間がかかるため、入院制限等患者様にはご不便をおかけしますが、

少しでも早く病院機能が正常化できるよう、全職員が一丸となり努力致しますので、皆さま方のご理解、ご協力の程、よろしくお願い致します。

最後に、当院を信頼、御支援して頂いております患者様、医療関係者の皆様、地域住民の皆様にこの場をお借りして、重ねて感謝申し上げます。

令和3年2月8日

院長 稲垣 優